1stアルバムのレコーディングが佳境に差しかかったころ、YUKIは音楽番組『eZ a GO! GO!』のパーソナリティを始めることになった。

前任者は、チャラ。

音楽ファンとしてチャラを敬愛していた彼女にしてみれば、テレビという不慣れな媒体での不得手な役割と、チャラの後任というプレッシャーから、毎週収録が近づくと胃痛に顔をしかめていた。

カメラが向くと緊張のあまり瞬きが増える。個性的なバンド名や長くて難しい曲名、それらすべてがYUKIの心を悩ませた。自慢じゃないが、暗記は得意ではない。それがもとでバスガイドの仕事を辞めたくらいである。とちる。そのたび、番組収録は中断する。スタジオにはゲストがお目当てのお客さんも入っている。収録中断となるたび、客席に座った女の子たちから嘲笑を浴びる。ときにはYUKIにだけ聞こえるように「ちょっとアンタ邪魔だよ、ゲストが見えないよ」といった酷い声が飛ぶ。容赦ないのだ。

しかしYUKIが何よりたまらなかったのは、すでにデビュー・シングルが完成し、アルバムだってもうすぐ仕上がるというのに、ボーカリストとして番組に参加していないことだった。このスタジオでは、YUKIは<JUDY AND MARYのYUKI>ではなかった。バンドをやっていることももうすぐデビューすることも、アピールできない。ここでの彼女は<謎の少女、YUKI>とでもいえばいいのだろうか、あくまでいちパーソナリティとしての出演だったのである。

「大丈夫だよ、気楽にやればいいんだよ。そんな、“すいません”って何度も言わなくっても大丈夫なんだよ、YUKIちゃん」

一緒に出演しているダンサーの女の子たちや番組の女性スタイリストは、そうYUKIを励ましてくれた。

でも、なかなかそうはできない自分の性格がYUKIは嫌でならなかった。いろんなことを気にして、気にしてそのぶんだけ失敗につながる。

(もうあたしを映さないで!)

カメラが怖かった。それに、観覧席にいるお客さんが怖かった。

けれども、まさかそのなかに出会いがあるとは。

「磯谷先輩!磯谷先輩でしょう? 私も愛高なんです、後輩です」

いつも番組収録を見に来ていたグループ、そのなかのひとりに、ある日声をかけられる。函館出身、しかも母校の後輩だという。

「ホントにー? そうだ、ねえ、帰りにお茶でもしようか?」

それからというもの、番組終了後、一緒にお茶して話して帰るのがYUKIの楽しみとなった。

話は尽きなかった。彼女たちにはお気に入りのアーティストがいて、彼らをお目当てにこの番組収録を見に来ていたわけだが、YUKIからアーティストの裏話を聞き出そうなんて魂胆は微塵も感じられない。

YUKIは古くからの友達に相談するように、実はこの仕事、けっこうつらいんだと自分の悩みを打ち明けるようになっていった。

「あたし怖いんだ。みんな知ってるように、全然できないしさ」

「何、言ってんの? 大丈夫だよ。いろいろ言ってるヤツもいるけどさ、べつにYUKIちゃんが気にすることないじゃん?」

「ウチらいるしさ。頑張んなよ」

スタジオで偶然知り合った友達、ミカとミキ。それから7年近く経った今、彼女たちはYUKIを支えてくれる大切な仲間となっている。

とにかく、やれるだけやってみようとYUKIは思い始めていた。

「YUKIちゃん、レコード店にチラシを配るんだけど、JUDY AND MARYのデビューまでをイラストで描いてみない?」

事務所のプロデューサーである成瀬は、レコーディング・スタジオに貼ってあったYUKIのイラストを見てすぐにそう勧めた。

戸惑うというより、YUKIにはわけがわからない。そういうことは普通、プロのイラストレーターに任せるのではないか?

(あたしなんかのイラストでいいのかな。でも、ま、やってみっか)

うさぎを自分に見立ててYUKIが描いた<JUDY AND MARYストーリー>は媒体関係者や各地のレコード店に好評だった。デビューが近づくにつれ、ラジオや雑誌の取材、レコード店回りとキャンペーンが始まる。そこで初めて出会い人たちから、イラストの感想を寄せられる。レコード店の人たちがCDの横に飾っておいてくれる。

(へえ。こういうこともこんなふうに実を結ぶんだ)

実感がわく。自信とは、もしかすると実感の積み重ねなのかもしれない。たとえ、それがどんなにささやかでちっぽけなことだとしても、無自覚であったとしても、それは彼女のなかに光る砦を築いていく。

9月22日、YUKIは新宿のタワーレコードにいた。

ラックから一枚、「POWER OF LOVE」を手に取ってみる。いったいこのフロアに何十万枚あるかわからないCDのなかで、これが世界にたったひとつJUDY AND MARYのデビュー・シングルなんだ——などというセンチな気分には、なぜだかまるで襲われなかった。

ただ彼女の小さな手のなかに、「POWER OF LOVE」がある。

YUKIはそれを持ってレジへ行くと、お財布から800円を取り出してデビュー・シングルを買い求めた。

(これから、ずっと、発売日には自分たちのCDを買いに来よう)

この日彼女がJUDY AND MARYに約束したこの決め事は、2ndシングル「BLUE TEARS」が発売された翌々月の11月21日も、その後もずっと、一度も破られることなく続いている。